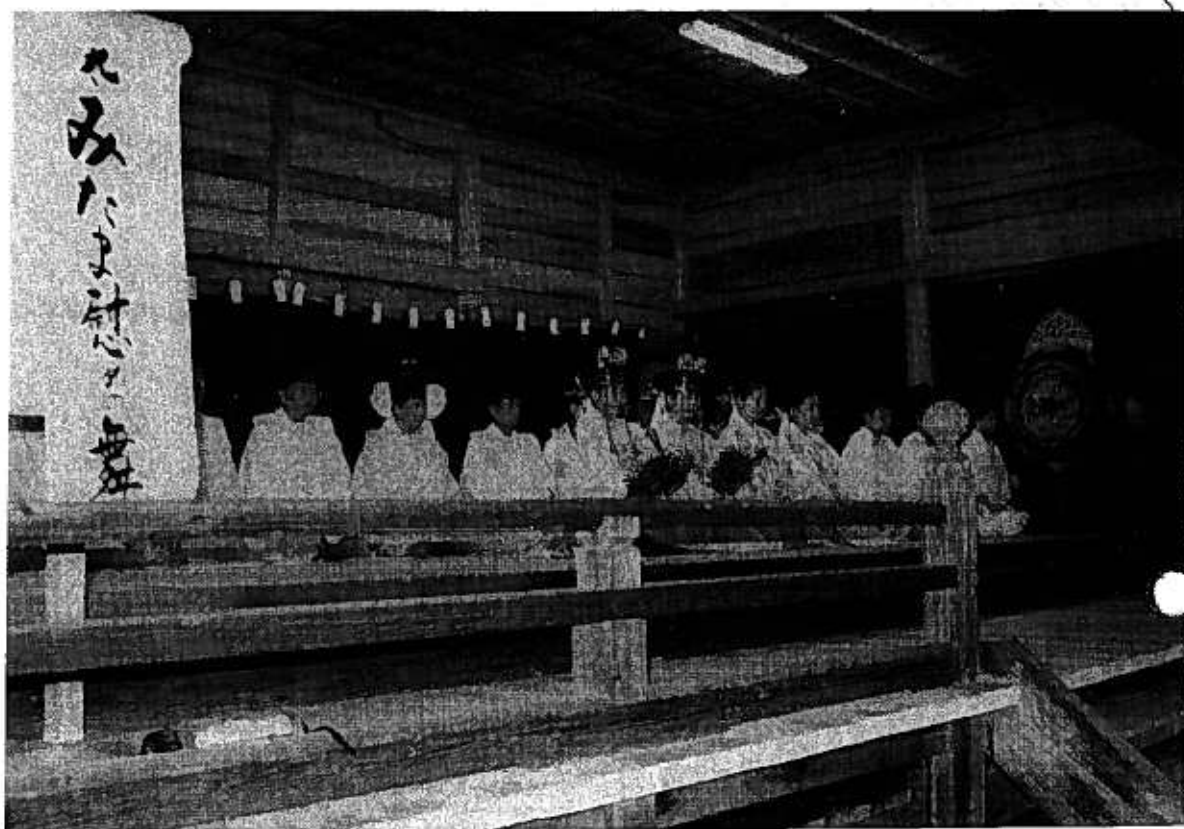
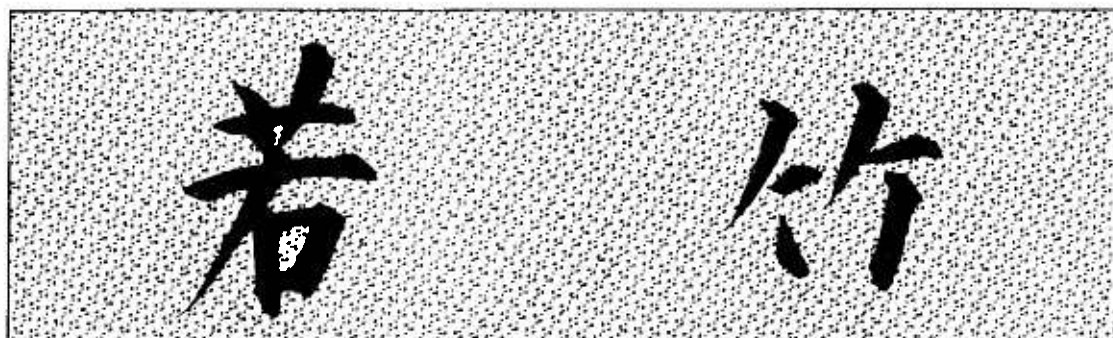


第三十二号



神道青年会の御問合せ、
会費納入等は

事務局 真鍋豊孝
〒790 松山市居相町337
TEL 089-956-0321 FAX 956-3323

投稿、原稿、写真等の送付
「若竹」の御問合せは、

「若竹」編集局 飯尾真通
〒799-13 東予市円海寺191
TEL 0898-64-0893 (FAX 兼)

神道青年全国協議会

第四十八回 定例総会 開催

四月十八日

去る四月十八日、神社本庁に於いて、神青協の第四十八回定例総会が開催された。

当県よりは、武智正人会長、真鍋豊孝副会長が代議員として参加した。

北方神青協会長の御挨拶を戴き、昨年度の終戦五十年に対する活動を始め、会務会計報告、及び主なる活動計画として

- 一、皇太神宮御鎮座二千年奉祝行事
- 一、阪神淡路大震災並びに災害対策への対応
- 一、神青協創立五十周年年への対応

を始めとする、本年度の事業計画を審議した。

後、我々愛媛県神青には

親しみ深い、元愛媛大学教授、現、日本大学教授、百地 章先生による、「宗教法人法をめぐる諸問題」としての御講演を拝聴した。

最後に、本年度の総会での決議文を掲載し、御報告と致します。

「本年は、皇太神宮御鎮座二千年の佳節にあたり、謹んで奉祝の意を呈し、努めて神宮の奉賛に邁進することを期するとともに、来る平成十一年、神道青年全国協議会創立五十周年に向けて創立の主旨に鑑み、また諸先輩諸賢の足跡に習ひつつ、いよいよ青年神職としての本分と責務のもとに、本会の目的達成に尽力することをここに誓ふ。」

平成八年四月十六日

会員の皆様へ

暑中お見舞い申し上げます。常よりは、当会の活動に御理解御協力を戴き深謝申し上げます。

○去る五月十八日の青年会総会にては、二十一名の多数の会員各位が御集まり戴き、盛大に行われました事を御報告いたします。

新人の各位も多数御参集、役員一同、嬉しい限りです。○寂しいニュースもあります。長らく役員で御活躍であつた御田村相談役（前、松山市椿神社奉職）が、東京都の下谷神社へ奉職されました。

〒一一〇 東京都台東区東上野三二九一八
TEL〇三二

三三三二一 一四八八であります。

新地での御活躍をお祈りいたします。

さて当会の主催行事であ

装束祭具の御下命は

有竹重

〒600 京都下京区西洞院花屋町上ル
TEL(075)310-294(代)
FAX(075)216-966
振替口座京都六一二四三二

授与品奉製

伊勢の



社路社

〒561

伊勢市岩洲二丁目5番29号(私庫南26号)
TEL 0596-24-5858(代表)
FAX 0596-24-5110

る、観月神楽の夕べ、本年は、

宇摩郡土居町御鎮座の、土居神社 矢野耕一郎宮司様にて開催させて頂く予定です。神青会員を始めとする皆様の御奉仕をお願いします。

神社本庁設立五十周年

記念式典に参加して

古 田 充 興

去る五月二十二日、日本武道館に於いて常陸宮・同妃両殿下のご台臨を仰ぎ、神社本庁設立五十周年記念式典が盛大に執り行われた。全国各地より約一万人の神



神社本庁設立50周年記念式典

社関係者が集い、先人の御苦勞に敬意を表すとともに、神社界の今後更なる発展への決意を新たにしました。

まづ、池田厚子神社本庁総裁が、「祖先から守り伝えられたこの道を、今以上に自然を大切に伝統を守り、祭祀を厳修し皇室の弥栄を祈り、新たな国づくりの為の神社関係者の一層の精進を望みます。」と述べられ、続いて常陸宮殿下のお言葉を賜り、その後、北方幸彦神道青年全国協議会会長が決意表明を読み上げられた。

決意表明

斯界の先人は、過酷な占領下に神社の永続を悲願として、全国八万神社の総意

を結集し、神社本庁の設立に尽力されました。以来、ひたすら皇室の御安泰と神ながらの道の継承発展に奔走された幾多先賢の御苦勞に思いを馳せ、深く敬意と感謝の意を表するものであります。顧みますと、戦後の経済復興と共に、神社は一応の安定を見るに到りましたが、急激な国情の変化は、道義人倫の退廃を招き、祖先の良風美俗を軽んじ、混迷は深まるばかりです。このような中において混迷を乗り越える道は、まさに神社の信仰以外にありませ



ん。私もも神社人に課せられた責務は、誠に重大であります。伝統を現代に生か



して正しき道を興し、愈々祭祀厳修に務め、以て国の隆昌と世界の共存共栄の為、一層の努力を傾注致したく存じます。茲に、神社本庁設立五十周年にあたり、聖寿の万歳を言寿ぎ奉り、神社関係者を代表し、右決意を表明致します。

平成八年五月二十二日

神政連青年隊代表者研修会開催

隊員 飯尾 真通

去る平成八年四月四日より、五日迄の一泊二日間、神社本庁にて神道政治連盟青年隊（略して神政連）の研修会が、各県一名程の代表者の参加を得て行われました。

今回の主題は「混迷する時局と今後の神政連の取組について」とされ、第一講を田尾憲男政策委員の「夫婦別姓の問題点と今後の取組について」、いろいろな現状を踏まえてのお話を頂き、翌日行われる「国会議員への陳情」なども絡めた内容で突っ込んだ事も示して下さいました。

第二講では、「宗教法人制度を巡る諸問題について」との主題で、打田文博事務局長より、現在実施されつつある「宗教法人法の改正について事細かく説明して頂き、今後の対応に付い

ても以前に増して、理解できな様に思われます。

その後は意見交換会が行われ、それぞれの抱いている宗教法人法に対する不安や疑問をぶつけあい、熱の籠もった質疑応答が行われました。又最後は、明日行われる各県選出の国会議員に對する（夫婦別姓反對の運動推進の為の意見陳情）の際の対応の仕方等の簡単な説明があり、懇親会にて、明日以降の事についてそれぞれの心のうちを語り合いました。

翌五日には、神社庁にて閉講式を取り行ったあと、第一参議院会館にて、参議院自由民主党幹事長・村上正邦氏達より、御挨拶を戴き、別室にて詳しい説明を受けたあと、それぞれ二人一組で各県選出の国会議員の東京事務所を巡らせて戴

きました。

御本人にお会い出来たのは越智伊平氏、小野晋也氏のみではありましたが、同順番の関係上、お待ち戴きながらもお会い出来なかつた方もあり、大変申し訳なく思うと共に、嬉しく思いました。ある女性秘書の方などは、暫くの間お話をさせて頂き、「女性として、又私個人としては」と前置きの後、「夫婦別姓には反對です。別姓が実現しては困ります」と、我々に賛同して下さいました。

後大変印象深かつた事として、香川神青の方と議員会館を廻らせて戴いている時に、若い子供連れの女性が、やはり同じ様に議員会館を駆け巡っていました。私は、多分別姓賛成で廻っておられるのだろうと邪推しておりましたが、あちらが私たち二人を見つけると駆け寄ってきて、「神社の関係で来られてた方ですか？」と尋ねられ、私達が「

はいそうです」と答えたならば、「私達も夫婦別姓反對の願いに廻らせてもらってるんです。神社界の方々も同じ日にこうして廻っていることを伺って大変心強く、そして嬉しく思います。」と云う様に、にこやかにそして安心した様に二人とも暫く我々と言葉を交わした後、お互いに励ましの言葉を掛けて別れた事です。香川のかた共々予想外の展望に驚き且つ喜び励まされて残りの議員の事務所を廻りました。

この様に大変実りのある時間を戴けた事を感謝して国会議員会館を後にしました。

最後に、これから益々神社界も風当たりが強くなつて来ると思いますが、お互いの会員同士の繋がりや、先輩諸氏の御指導、また本庁等の指導を仰ぎつつこれからの神社界を盛り上げて行くうではありませんか。

みんな!! 冒険しよう!!

神道自然探訪会のご案内

かつて神道青年会に於て、会員間の親睦等を兼ねてソフトボール等のレクリエーションがありました。今現在は残念ながらその主旨を主目的とした行事がありません。そこで神青有志の発案により、神道自然探訪会（通称、冒険倶楽部）を画し、会員相互の親睦、そして神道の原点を成すこの国の自然に積極的に親しもうと、第一回石鎚山登山、第二回無人島軍需工場跡探訪と回を重ねて参りました。結果、予想以上に得るものが個々にあり、今後この様な催しを行なうべきだとの意見を得、この会を継続すべく皆様にご案内する次



第です。

様々な知識は書物の上からでも得る事は出来ませんが、古代の人々が感じた自然、神に対する「畏き」想いは自らを以てその森羅万象の



中に抱かれてこそ、初めて感じる事が出来るのではないかと思います。この会を通じていにしえの先人達の足跡を辿り、深く自然と交わり、如何にその暮しの中に、そして心の中に神々を感じし得たかを知る事も神道の大道を学ぶ私達には大切な事だと思えます。

第三回目は九月頃、探訪先は、日本最後の清流と謳われる四万十川中流域を予定して居ります。行程としましては一泊二日、テント泊という概要です。果たし

て日本最後の「清流」とは、どの程度の美しさか、それを取り巻く環境はどの様な状態か。この国の自然の現実を見学に行きたいと思つて居ります。詳しい内容は現在計画中ですが、御興味のある方は左記まで御連絡下さい。

連絡先

宇和島市和霊町一四五一
和霊神社内

吉田充興実行委員長

☎ 〇八九五一一二二一

〇一九七

お守りの御下命は

水戸奉製

〒三一一一四一
茨城県水戸市中丸町四八六一五
電話〇二九二一五二一七五六三
FAX 五五一二二三三二

❖ 事業報告 ❖

平成七年

四月十九日 神青協第四十七回定例会（於 神社本庁）

五月 六日 第一回役員会（於 椿神社社務所）

十七日 第二回役員会（於 松山全日空ホテル）

第二十四回定時総会

（於 松山全日空ホテル）

六月 一日 会報若竹三十号発刊

三日 北方領土返還要求愛媛県民会議役員会

（於 いよてつそごう）

五日 四国地区神道青年連絡会（於 徳島市）

八日 第三回役員会（於 椿神社社務所）

二十三日 地区協議協設立式案内状発送

（於 椿神社社務所）

二十七日 神青協夏季セミナー（於 神社本庁）

二十八日

七月二十日 愛媛県女子神職会定時総会（於 神社庁）

八月 八日 第四回役員会（於 椿神社社務所）

正式参拝（於 愛媛縣護國神社）

観月神楽打合せ（於 愛媛県縣護國神社）

慰霊祭奉仕（於愛媛県護國神社）

二十三日 四国地区協議会設立式典・研修会

二十四日 （於 国際ホテル）松山

自 平成七年四月一日
至 平成八年三月三十一日

九月 七日 敬神婦人会全国大会助成

（於 愛媛県民文化会館）

十七日 観月神楽の夕べ

（於 愛媛縣護國神社）

十一月 六日 初詣ポスター発送（於 神社庁）

二十八日 四国地区協議会役員会（於 徳島市）

十二月二十六日 初詣案内スポット（於 FM愛媛）

三十一日

平成八年

一月 一日 会報「若竹」三十一号発刊

二十二日 日本の伝統と文化を守る愛媛県民の会役員

会（於 国際ホテル松山）

二十三日 第五回役員会（於 国際ホテル松山）

新年互礼会（於 国際ホテル松山）

二月十一日 建国記念の日奉祝愛媛県民大会助務

（於 国際ホテル松山）

二十六日 神青協中央研修会（於 山口市）

二十七日

平成七年度決算書

歳入の部

項 目	本年度予算	本年度決算	比較増減	付 記
1 会 費	250,000	275,000	25,000	年度会費 新年互礼会費
2 助成金	200,000	200,000	0	神社庁
3 寄付金	1,300,000	1,393,000	93,000	県内神社神職 その他援助金
4 雑収入	61,748	84,712	22,964	預金利子 会報広告料 還付金
5 繰越金	738,252	738,252	0	
合 計	2,550,000	2,690,964	140,964	

歳出の部

項 目	本年度予算	本年度決算	比較増減	付 記
1 会議費	400,000	328,542	△71,458	総会 新年互礼会 その他会議
2 研修教化	500,000	741,068	241,068	地区協研修会 観月神楽 夏期セミ その他
3 事業費	700,000	503,912	△ 196,088	初詣案内 (ポスター・スポット)
4 広報費	180,000	68,575	△ 111,425	若竹30・31号 (6・1月号)
5 事務費	130,000	114,426	△15,574	切手 葉書 封筒 事務用品 振替手数料
6 備品費	10,000	0	△10,000	
7 旅 費	240,000	60,000	△ 180,000	中央総会補助
8 慶弔費	40,000	11,792	△28,208	御祝金 電報
9 分担費	270,000	216,133	△53,867	神青協醸出金 地区協醸出金 北方領土
10 雑支出	30,000	3,883	△26,117	菓子
11 予備費	50,000	0	△50,000	
合 計	2,550,000	2,048,331	△ 501,669	

歳入合計 2,690,964円

歳出合計 2,048,331円

642,633円 (平成8年度一般会計へ繰込)

監査報告 上記各項目監査の結果、相違ないことを認めます。

平成8年 4月12日

監事 堀 司

監事 井上 貞人

㊟

㊟

◎平成八年度事業計画◎

- 一、平成七年度会計監査会
- 一、第一回四国地区協議会役員会
- 一、神青協阪神大震災対策本部会
- 一、神青協第四十八回定例総会
- 一、日本の伝統と文化を守る愛媛県民の会役員会
- 一、神社本庁設立五十周年記念式典助成
- 一、第一回役員会
- 一、第二十五回定時総会
- 一、第二回四国地区協議会役員会
- 一、会報「若竹」三十二号発刊
- 一、皇大神宮御鎮座二千年奉祝行事への参加
- 一、四国地区協議会研修会への参加
- 一、親月神楽の夕べ
- 一、会報「若竹」三十三号発刊
- 一、初詣案内ポスター製作配布
- 一、初詣案内スポット
- 一、新年互礼会
- 一、神青協中央研修会
- 一、その他役員会決議事項

愛媛県神道青年会

会則変更承認さる

平成八年五月二十八日

於、愛媛県神道青年会総会

一、次期役員選出方法

第二章 第七条 次期役員は、前任期役員会に於て推薦

され、総会に於て承認される。但、再任を妨げない。

二、顧問、相談役の役職の設置。

第二章 第九条 本会に顧問及び、相談役をおく。

顧問及び相談役は、役員会の決議を経て会長が委嘱する。

三、会計年度変更

第四章 第十六条 本会の会計年度は、毎年四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終る。

四、補則の追加（第十八条追加）

第五章 第十八条 本会は、神道青年四国地区協議会に加盟し、代表を派遣する。

各条、右記の如く変更、または追加が承認されました。尚、変更、追加のあった条の全てを掲載しています。

会長 記

平成八年度予算

歳入の部

項 目	前年度予算	本年度予算	比較増減	付 記
1 会 費	250,000	270,000	20,000	年度会費 新年互礼会費
2 助成金	200,000	200,000	0	神社庁
3 寄付金	1,300,000	1,350,000	50,000	県内神社神職 その他援助金
4 雑収入	61,748	87,367	25,619	預金利子 会報広告料 還付金
5 繰越金	738,252	642,633	△95,619	
合 計	2,550,000	2,550,000	0	

歳出の部

項 目	前年度予算	本年度予算	比較増減	付 記
1 会議費	400,000	400,000	0	総会 新年互礼会 その他会議
2 研修教化	500,000	500,000	0	地区協研修会 観月神楽 夏期セミ その他
3 事業費	700,000	700,000	0	初詣案内 (ポスター・スポット)
4 広報費	180,000	180,000	0	
5 事務費	130,000	120,000	△10,000	切手 葉書 封筒 事務用品 振替手数料
6 備品費	10,000	10,000	0	
7 旅 費	240,000	200,000	△40,000	中央總會補助
8 慶弔費	40,000	40,000	0	御祝金 電報 その他
9 分担費	270,000	270,000	0	神青協醸出金 地区協醸出金 北方領土
10 交通費	—	50,000	50,000	会長手当
11 雑支出	30,000	30,000	0	菓子
12 予備費	50,000	50,000	0	
合 計	2,550,000	2,550,000	0	

歳入合計 2,550,000円
 歳出合計 2,550,000円

平成 8 年 5 月 28 日

愛媛県神道青年会

会長 武智 正人

平成七年度 助成金・御寄附 御芳名

神社庁助成金

(金二十万円也)

平成七年度助成金 愛媛県神社庁 殿

平成七年度 寄付助成芳名

(金十万円也)

石 錘 神 社 十亀 興美 殿

伊豫豆比古命神社 長曾我部延昭殿

(金七万円也)

和 靈 神 社 三輪田元亮 殿

(金五万円也)

愛媛縣護國神社 波爾 莊 殿

(金參万円也)

一 宮 神 社 矢野 哲 殿

庁松山支部 殿

庁大洲支部 殿

庁喜多郡支部 殿

(金二万七千円也)

庁伊予支部 殿

(金二万五千円也)

網敷天満神社 菅 光正 殿

(金二万円)

加 茂 神 社

八 幡 神 社

池内 公和 殿

柳原 幸 殿

小野 義興 殿

庁久万支部 殿

庁宇和山支部 殿

庁八幡浜支部 殿

吉岡 太郎 殿

渡邊 宜榮 殿

三 島 神 社

八 幡 神 社

八 幡 神 社

大浜八幡大神社 殿

榎垣 壯次 殿

庁西条支部 殿

合田 知由 殿

菅 光正 殿

堀 江 神 社

網敷天満神社 殿

嘉 母 神 社

石川 漢見 殿

近藤 儀貞 殿

白 山 神 社

三 島 神 社

湊 上 神 社

濱 上 神 社

玉生八幡神 殿

保内八幡神 殿

今 宮 神 社

多 伎 神 社

千 足 神 社

桑原八幡神 殿

大 宮 八 幡 神 社

雄 郡 神 社

忽 那 島 八 幡 神 社

三 嶋 大 明 神 社

伊 豫 稻 荷 神 社

阿 沼 美 神 社

井 手 神 社

三 島 神 社

川 上 神 社

護 運 玉 甲 申 賀 益 八 幡 神 社

勝 岡 八 幡 神 社

正 八 幡 神 社

日 吉 神 社

三 島 神 社

新 田 神 社

八 幡 神 社 氏 子 会 殿

宮 田 德 福 殿

沖 中 豊 富 殿

森 本 茂 章 殿

總 社 大 明 神 社

渦 浦 八 幡 大 神 社

奈 良 原 神 社

沼 崎 守 文 殿

真 鍋 惶 土 郷 殿

石 丸 典 良 殿

和 氣 須 賀 雄 殿

高 市 誠 司 殿

大 宮 四 郎 殿

武 智 裕 殿

星 野 暢 廣 殿

大 内 信 鷹 殿

横 田 政 昭 殿

横 田 清 光 殿

野 口 泰 治 殿

飯 尾 宏 隆 殿

武 智 雄 三 殿

武 智 純 二 殿

都 子 野 清 彦 殿

八 幡 神 社 氏 子 会 殿

宮 田 德 福 殿

沖 中 豊 富 殿

森 本 茂 章 殿

矢 野 宗 保 殿

馬 越 紀 久 江 殿

馬 越 和 紀 殿

天満	天満	南	立	新	八	天	三	築	金	惣	三	湊	高	客	恵	三	高	大	東	岩	黒	高	石	三	喜	西	奈
一	一	山	石	田	坂	満	嶋	島	刀	河	島	三	家	王	依	島	西	宮	城	城	浜	清	皇	多	浦	西	良
稻	稻	神	神	神	神	天	神	神	比	内	神	嶋	八	幡	二	神	神	神	幡	幡	幡	水	神	八	幡	幡	原
神	神	社	社	社	社	神	神	神	羅	神	神	幡	幡	幡	幡	幡	幡	幡	幡	幡	幡	幡	幡	幡	幡	幡	幡
社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社
武	武						都	渡	山	佐	武	渡	都	二	高	高	鴨	及	十	八	近	亀	芥	熊	馬	塩	竹
智	智						築	部	下	伯	智	部	子	神	市	市	川	川	亀	原	藤	山	本	越	出	之	
成	純						芳	正	幸	清	定	野	通	慶	俊	重	徹	司	敬	史	和	亮	真	祥	光	内	
彬	二						憲	己	伸	明	詮	明	訓	久	次	元	也	老	睦	孝	磨	亮	克	穗	雅	志	
殿	殿						殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	磨

(金三万円也)
 伊豫豆比古命神社 長曾我部延昭殿

(金一万円也)
 日招八幡大神社 玉井 正素 殿
 愛媛縣護國神社 波爾 莊 殿
 (金五千円也)
 県女子神職会殿

第二十四回 定時総会援助金

大元	大元	廣	德	和	當	湯	白	天	三	多	大	八	三
元	元	田	威	靈	田	嶋	髭	滿	島	賀	元	坂	島
神	神	神	神	神	幡	天	神	神	神	神	神	神	神
社	社	社	社	社	神	神	社	社	社	社	社	社	社
矢	大	武	首	三	額	菊	宮	一	久	井	阿	八	三
野	野	智	藤	瀨	田	地	本	宮	保	上	部	幡	瀨
賀	勘	盛	滿	勝	安	安	稚	康	直	直	重	社	高
久	藏	明	理	史	起	起	秋	人	隆	隆	滿	氏	德
殿	殿	殿	惠	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	殿	子	殿

観月神楽の夕べ援助金

(金一万円也)
 伊豫豆比古命神社 長曾我部延昭殿

新年互礼会援助金

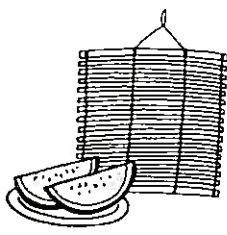
(金二万円也)
 日招八幡大神社 玉井 正素 殿
 八幡神社氏子会殿

伊豫豆比古命神社 長曾我部延昭殿
 (金一万円也)
 和 靈 神 社 三輪田元亮 殿

愛媛縣護國神社 波爾 莊 殿
 (金五千円也)

高忍 日壳 神社 後藤 正宜 殿
 県女子神職会殿
 県神社庁 殿

右の皆様に
 厚く御礼を申し上げます。





のうた せいいち
能田 誠一

昭和三三年二月一日生
松山市吉藤一丁目三一

三島神社 祢宜



わたさき まさひこ
綿崎 雅彦

伊豫豆比古命神社 出仕
氏之宮三嶋神社
昭和四八年四月一七日生



おの てつや
小野 哲也

八幡神社 祢宜
昭和四二年九月二九日生
上浮穴郡面河村中組

電話〇八九・九二四

〇六一八

今年の春に直階を取得したばかりで、何も分かりません。今は会社に行きながら神社の祭りを手伝っています。神道に関しては本で知ったばかりで実際の事は分かりませんので御指導の程よろしくお願ひします。

温泉郡川内町

則之内甲一五四七

電話〇八九一九六六一

三二五四

真面目に神社をやりたいと思つています。分からない事ばかりなので、優しく教えて下さい。よろしくお願ひ致します。

一九七四

電話・FAX

〇八九二一五八一三二八四

まだまだ若輩者ですので、よろしくお願ひいたします。



くめ たいか
久米 泰小

八幡神社 祢宜
昭和三五年二月三日生
新居浜市久保田野
二一・二二・二



いしむら せい
石村 聖

昭和三七年六月二七日生
南宇和郡城辺町甲二〇五七



わたなべ たいら
渡辺 平

伊豫豆比古命神社 出仕
三島神社
昭和五〇年二月二四日生

電話

〇八九七上三二一四九八三

まだまだ新米ですが、これから勉強して行きたいと思ひます。宜しく御指導願ひます。

電話〇八九五〇七二二

二二〇八

昨年までの会社員の世界から全く違つた世界に入りました。御指導の程、宜しくお願ひ致します。

伊予郡中山町大室佐礼谷

甲一四五六

電話

〇八九一九八三二一八四

今年國學院専修科を卒業しました。御指導よろしくお願ひいたします。

お時間拝借

◆ 仁義なき モグラ戦争 ◆

モグラに対して皆さんはどの様なイメージをお持ちですか？

畑などを荒らす有害な動物、或いは、漫画に出てくる愛嬌のある可愛い動物、人により様々でしょう。

穴を掘った跡の「モグラ塚」はよく見掛けますが、モグラそのものを見た事のある人は意外と少ないはず。

モグラは四時間重労働（穴掘り）すると四時間眠り起きて四時間働き又四時間眠るそうです。日々これを繰り返します。真夜中に目が覚めたら働く気がしない……。御心配なく、目が見えないので夜も昼も関係有りません。

富士箱根抗争

モグラ科モグラ属（Mogera）は、北海道を除く日本各地に四種を産します。

関東・東北に勢力を張る中型のアズマモグラ、中部・関西・四国・九州を制覇した大型のコウベモグラ、山岳地帯にひっそりと住む小型のミズラモグラ、佐渡島を縄張りとする弱小勢力のサドモグラの四種です。

モグラは縄張り意識が強く、異なる種類が仲良く暮らす事は出来ません。かつて日本全国を（事実

上）牛耳っていたのはアズマモグラ一家でしたが、約二万年前中国大陸から渡って来たコウベモグラ組が西からどんどん勢力を拡大しています。

コウベモグラはアズマモグラの二倍も体重があるので、抗争になれば絶対有利。しかし弱点もあります。

大型種の為ミミズを中心とする餌を多量に必要とし、大きな体が通れる太いトンネルを掘る為には柔らかい土壌環境でないと困ります。太平洋側を快進撃して来たコウベモグラも、富士・箱根の山に阻まれ苦戦中です。岩礫混じりの山岳土壌にはミミズが少なく、穴も掘りにくく足踏み状態です。

ある専門家は、東名高速道路の盛り土がコウベモグラの進入突破口となると予測しました。人工的に柔らかい土を盛り上げた高速道路基盤はモグラにとって理想郷となるからです。しかし、最近の調査では

箱根以北のゴルフ場でも生息が確認されたそうです。人為的に土壌をあちこちに移動すれば、同時にモグラも移動する事はあり得そうです。

地下生活者のモグラは人間生活と無縁の様に思えますが、実際には色々影響を与え合っているのです。

宮内庁・神宮司庁・神社本庁 御用達

株式会社



本社 京都市下京区油小路通六条上る(〒600)
電話(075)341-3341(代) FAX(075)341-7902
東京店 東京都新宿区四谷三栄町11-6(〒160)
電話(03)3357-4800(代) FAX(03)3357-4805
福岡店 福岡市博多区東公園2-31(吉塚駅前)(〒812)
電話(092)651-9456(代) FAX(092)631-0835

月刊

日本の息吹

日本を愛する国民運動のオピニオン誌

購読のご案内

日本の心と国民運動の息吹を伝える情報誌「日本の息吹」。年間3千円で毎月お手元にお届けします。この機会にぜひお申し込みください。




「日本の息吹」見本誌を贈呈致します。ご希望の方は下記までご連絡下さい。
 【ご連絡・お申込先】

日本を守る国民会議
 〒153 東京都目黒区青葉台3-10-1-601
 電話 03-3476-5611
 FAX 03-3476-5612

- 「日本の息吹」とは—
 憲法問題をはじめ、皇室・防衛・教育などに各々の目標を掲げ、国民運動を展開している日本を守る国民会議の月刊誌です。
- ① マスコミが報道しない、日本の国益を守る上で貴重な情報が得られます。
 - ② 日本の心に触れ、日本人としての自信と誇りが漲ります。
 - ③ 全国各地で展開されている日本を守る国民運動のホットな情報が得られます。

【国民運動への提言】 いじめ問題と教育の再建／文部省と日教組の危険な癒着／あまりにも短絡的な夫婦別姓論議／皇室と慰霊の御心／国政を揺るがした終戦五十周年国民運動／謝罪外交でアジアは平和になるか／敗戦国心理が招く日本経済の危機／憲法を歴史の上に位置づけよ／社会党病に蝕まれる日本の防衛 など
 【登場する多彩な顔触れ】 犬養孝、小堀桂一郎、春風亭柳昇、高田好胤、出羽海智敬、西尾幹二、西部邁、長谷川三千子、船村徹、三波春夫、渡部昇一 他

 <p>神社授与品 記念品奉製</p> <p>株式会社 〒114 東京都北区滝野川三丁目二十番十一号</p> <h3>長谷川製作所</h3> <p>代表取締役 長谷川 和夫</p> <p>電話 東京 03 (3912) 6161 FAX 東京 03 (3912) 3131</p>	<p>授与品奉製</p> <h2>希 牟 羅</h2> <p>代表 木村 甯</p> <p>〒114 東京都北区王子 5-12-9 TEL 03-3912-0573</p>	<p>繊細な技術と日本の伝統を今に継ぐ 授与品の奉製</p> <p>古都奈良の</p> <p>株式会社</p> <h2>大和奉神堂</h2> <p>〒630 奈良市山村町782番地 TEL 0742-62-3235(代) FAX 0742-62-3228</p>
---	--	---

好評につき 「白衣・襦袢セット」巫女さん用 領布のご案内

神青協の事業品領布には、常日頃ご理解とご協力を賜わり厚く御礼申し上げます。昨年より領布させて戴いてをります「白衣・襦袢セット」も、お蔭をもちまして大変ご好評を戴き、神青協運営の自助として涉外・教化等の活動に役立たせて戴いてをります。

今回はこの「白衣・襦袢セット」に、ご要望の多かった「巫女（女子神職）用」を新たに領布させて戴きます。巫女さんはもちろん、年末年始の助勤者用にと幅広くご活用戴ければと存じます。

神道青年全国協議会 事業委員会

内容 白衣 2 枚・半襦袢 4 枚のセット

- ◇種類 夏物と冬物がございます。
- ◇サイズ フリーサイズ
着丈は白衣127cm、襦袢69cm
- ◇素材 白衣：夏物 ポリ65%、麻35%
冬物 ポリ65%、綿35%
襦袢：夏冬とも 綿100%（衿はブロード）

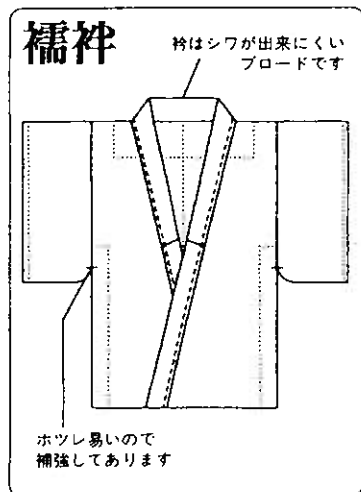
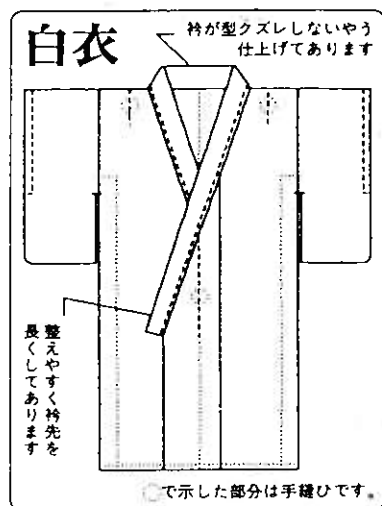
価格 12,000円

神青協特別価格。通常業者で販売している価格の半額です。尚、送料は別途ご請求申し上げます。

お申込・お支払

別紙注文書にてFAXが郵送にてお願い致します。

★備考欄に単位会（都道府県）名を必ずお書き下さい。
お支払は領布物品同封の振込用紙にてお振り込み下さい
ますようお願い致します。



好評頒布中/ 祭典用和傘



「頒布品の架」をご参照下さい

ご要望にゆへ、祈願名を21種に増やしました。神札のはおりにもびつたりの大きさです。

初宮詣
家内安全
心願成就 海上安全
新年祈禱 厄除祈願…
……………など
21本をセットにしました

宮印(21本入)

お申し込み・お問い合わせ

神道青年全国協議会事務局 (担当/橋野)

〒151 東京都渋谷区代々木1-1-2 本社本庁内

TEL (03)3379-8011

FAX (03)3379-8299

編集後記

神青執行部の大任を任せられて早三年目となりました。なんと月日の流れの早いことか。

最初は、其こそ体当たりで色々な本や会報のバックナンバー、他県の会報等を読みあさり、イラストや写真等も随分と悩んで決定を下したりしました。

今では、武智会長の適切な助言を戴きながらだいぶんと手慣れてきたのでは。と自己満足しております。

こうやって「若竹」の編集をさせていただいておられますと、会員の皆様の御協力（半強制的ですかねえ）でしか成り立たない事が随分身に染みて解って参りまして、大変あり難く思っております。また、御陰様で編集後記の他にも、「お時間拝借」といったページ迄戴き随分と遊ばせてもらっています。

会員の皆様も、これに倣

って？どんどんと楽しい、そして役に立つ（皆さんがこんなのを読みたいなあとかこんな事を載せたいなあ。といった）原稿を投稿して下さい。お待ちしております。

話は変わって、本文の中でも書かせて貰いましたが、最近では宗教法人法の改正に伴って様々な事が取りざたされていきますが、対策は充分でしょうか？

私も兼務宮司代務者となり、色々な事務手続きを初めて自分で行いましたが、ややこしいですね。第一自分の親の跡を継ぐのならまだしも、他のお社を継ぐとなつたらいろいろなことが目の前にやってくる。これがまたややこしい。普段開かない関係法規の本等を引っ張り出してきては、ああでもない、こうでもない。ほんつとうに参りました。他の支部の事は判りませんが、我が支部では、法規の整理の出来ていないお社が多いように伺っております

が、直接関わって来ることのある方は是非御自分のお社の規則を見直したほうがいいですよ。余計なお節介かも知れませんが、今回のことで良い勉強に成りましたから。皆さんも一度どうぞ。ということ、今年の新年互例会や先日行われた総会にも新人さんが多数参加して下さり、我々執行部はほくほく顔しております。どうぞ皆さん、時間の許す限りどんどん会に出て頂いて、懇親会や二次会で、酒を片手に語り会おうじゃないですか。

◎事務局◎

〒790 松山市居相町三三七
椿神社内

眞 鍋 豊 孝

☎〇八九一九五六―〇三三二二
ファックス

〇八九一九五六―三三三三三

振替番号が変りました。
御注意下さい。

会員の皆様へ

年会費 五千円

納入のお願い

神道青年会の会費納入率が五割を切りそうな状況です。会の活動のため、ぜひとも会費納入をお願いします。

県内各神社の皆様方、神道青年会活動に御理解御協力を戴き、ありがとうございます。本年度もぜひ、御協力下さいますよう御願ひ申し上げます。

愛媛県 神道青年会 会報

若竹 年会費 五千円

事務局 〒七九〇

松山市居相町三三七

伊豫豆比古神社(椿神社)

電〇八九一九五六―〇三三二二

FAX 五六―三三三三三

編集者 〒九七九九―一三

東予市円海寺一九一

飯尾 眞 通

電〇八九八―六四一〇八九三

会費振替 (FAX兼)

〇一六七〇―二一三七三五八

愛媛県神道青年会